

「常陸大宮市有機農業推進計画(案)」に対するパブリック・コメントの実施結果について

パブリック・コメントの実施結果について、次のとおりお知らせします。
 実施結果は、市ホームページや産業観光部農林振興課(本庁2階)、または各支所でも閲覧できます。

《パブリック・コメントの実施概要》

- 意見の募集期間 令和4年1月25日(火)～令和4年2月24日(木)
- 案の公表方法 市役所産業観光部農林振興課(本庁2階)および各支所総合窓口で閲覧
- 意見の提出方法 直接持参、郵送、FAX、Eメール
- 意見の提出状況 直接持参2名 Eメール1名

○意見の内容および意見に対する市の考え方

※いただいたご意見につきましては、原文ままとおり掲載しております。

No.	対象計画	意見のタイトル	意見の内容 ※原文のとおり記載しています。	意見に対する市の考え方
1	常陸大宮市有機農業推進計画(案)	道の駅を活用した有機農業の取組の推進	<p>・現在、有機農業の取組が進んでいない要因としては、農家だけでなく、消費者も含め、あまり「有機農業について関心がない」ことにあると思う。また、身近な事例等がないことも要因としてあると思われる。このため、市の計画(案)では、「三美地区をモデルに位置付けて」とあるが、これにより、有機農業に関する理解や取組に広がりが出るのか等、疑問がある。ついては、三美地区だけでなく、市民に、もっと身近な場所として、また、交流人口を増やす観点からも、「道の駅」で、単に有機農産物の販売だけではなく、各種の取組を積極的に実施する(取り入れる)など、市として、計画(案)の中に「道の駅の活用」の取組内容を追加記載すべきではないか。</p> <p>・例えば、有機農業に関心が低い人でも、道の駅に行けば、購入だけでなく、実際に、有機農業の取組(栽培の様子)を見ることが出来るような「有機農業の圃場」を道の駅に設置する。そこでの「有機農家との交流」、さらに、そこで「収穫体験」を通じた交流人口の増加や、収穫された農産物を、道の駅で販売するだけでなく、「レストランでの飲食」をはじめとした「有機農産物フェア」の開催により、有機農業</p>	<p>現在、常陸大宮市においては、少子・高齢化の進行や人口減少等の課題があるとともに、農業分野においても、後継者・担い手不足等の課題があります。このような中で、市民に身近な道の駅の活用は、有機農業についての理解を深めるとともに推進等を図るうえで、市としても有効な取組であると考えているところであり、また、更なる地域の活性化や交流人口の増加等を図る観点からも、大きな役割を果たすものと考えられることから、ご意見の提案内容に関しましては、計画に反映させるとともに、今後、具体的に検討しながら、関係機関等とも連携して進めてまいります。</p>

No.	対象計画	意見のタイトル	意見の内容 ※原文のとおり記載しています。	意見に対する市の考え方
			への理解を深めるとともに、地域活性化の促進にもつながる。 ・また、目に見える形での「新規参入支援」の一環として、道の駅に設置する「有機農業の圃場」で常陸大宮市に新規で参入する農家の技術支援を実施する。この取組等を通して、四季折々の有機農産物および栽培の状況を、道の駅に行けば見られるだけでなく、高齢化・少子化等の進行により、後継者・担い手不足が課題である中でも、常陸大宮市では地域外からの参入者を積極的に受入れ支援する市の取組姿勢が対外的にアピールでき、更なる新規参入者の促進にもつながる。 ・現在の「計画（案）」では、既存の取組内容や、抽象的な記載内容が多く、また、シンボリックな取組の記載が欠けており、計画書においては、さらに、具体的で積極的な各種の「道の駅を活用した、他市町村にはないような象徴的な取組の構築」に関する追加記載が必要だと思われる。	
2	常陸大宮市有機農業推進計画（案）	自給的有機農業の進め 「私作る人、私食べる人」の思考では安全な食べ物は出来ない 何故有機農業をしなければならなかったかの歴史考察	100年位前までは自給的農家が殆どだった。それが徐々に他産業に就業する人が増加して、例えば1人の農民が3～4人の食料生産がやっとだったが、都市部のいわゆる消費者が多くなり、1人の農民が50～100人分の生産が必要となった。アジアモンスーン地帯で、温暖であり、降雨も適当にあるため、作物は良く生育するが、雑草、病害虫も当然多くなる。戦後、特に米国から殺菌、虫剤、除草剤等の化学合成薬剤が導入され、耕地に大量散布され、多くの人的および環境破壊が起った。正に「食料の豊富な飢餓の時代」が来たのだ。	有機農業につきましても、多様な取組があることから、ご意見いただきました有機農業に対する考え方の方に関しましては、本市における今後の有機農業の具体的な取組推進等を図るなかで、参考にさせていただきますとともに、今後、有機農業についての情報発信等においても、ご意見の趣旨を踏まえながら、工夫して対応してまいります。

No.	対象計画	意見のタイトル	意見の内容 ※原文のとおり記載しています。	意見に対する市の考え方
			有機農業とは、無化肥、無農薬が基本で、有機物の循環を主体とする。生命の源である食べものは他人まかせでなく、自分自身で、それと同調者が共働で汗を流し、生命力ある食べもの作り、その感動、喜びを味わい、子孫に伝えていくべきだろう。	
3	常陸大宮市有機農業推進計画（案）	有機農業推進に賛成。将来的には学校給食への提供も是非ご検討ください。	有機農業の推進はもとより、加えてさらに学校給食への提供等についても進めていただくと大変嬉しいです。以下の映画の中で、木更津市の農林水産課の方が、「農業振興、環境負荷低減、市のブランド化、すべてにつながってくる」と話をしているのが印象的でした。 学校給食への提供や、市内の学校を巻き込んだ食育なども視野に入れた上で、ぜひ推進していただきたいと思っています。 いただきます2 オーガニック給食篇 予告編 -YouTube	市といたしましても、学校給食に地元の農産物を使用することは、有機農業を推進する上で重要であると考えております。ご意見いただきました、学校給食への提供、食育等に関しましては、本計画の目標である「有機農業に対する消費者の理解の増進」や、推進に向けた方策である「有機農産物の流通販売・消費の促進」の中に盛り込んでいるところであり、学校給食等における有機農産物の使用については実施を目指してまいります。

問 本庁 農林振興課農業畜産G ☎52-1111 内線206